

## ハチ公像を東大に 会長からのごあいさつ

犬は、人間にとってつきあいの長い動物です。危険を知らせたり、人間の仕事を手伝ったり、人間の介助をしたり、大活躍です。しかし、なんとといっても、犬たちが私たちに与えてくれる最大のものは、「純粋無垢」という感触です。彼らは、私たち人間に、まさしく純粋無垢に、そのときそのときの生をぶつけてきます。この犬たちのありように、人は惹きつけられてやみません。

私たちの東京大学には、実は、こうした純粋無垢な犬のありようを代表するエピソードがあります。「忠犬ハチ公」の物語です。ハチ公を知らない日本人はいないといってよいほど、有名なお話です。日本のみならず、ハチ公の物語は世界にも知られています。けれども、残念なことに、ハチ公の飼い主が日本の農業土木学の創始者、東京大学農学部の上野英三郎博士であったという事実はさほど知られておりません。あんなに亡くなった飼い主を純粋に慕って渋谷駅に迎えに行く姿に人々が感動したのは、その飼い主が誰なのか知られていないのは不思議な気がいたします。わたしたちはこうした歴史の事実を広く知っていただくために、動き出す時が来たと思っています。

なぜなら、2015年3月8日に、「ハチ公没後八十年」を迎えるからです。「ハチ公」の「八十年目」の命日です。こうした、いわば記念すべき時に、ハチ公と上野博士との逸話を改めて世に伝えたいと考えました。そのために、上野博士とともにいるハチ公の像を制作して東大構内に置いたらどうだろうか。これが私たちの提案です。世に「ハチ公像」はいくつかありますが、上野博士に飛びついているハチ公像は他にないと思われまます。

ハチ公のエピソードは人と犬との関係を象徴する宝物です。ハチ公と上野博士の像が、東大の歴史の中の逸話を思い起こさせるだけでなく、「人と動物の相互敬愛の象徴」になればと願います。東大では、犬を含めた動物に関する様々な研究や診療活動が行われ、動物と人間との関係についての研究も行われています。こうした活動の根底には、動物の生に対する尊厳と愛情があり、それがまた人の社会に反映します。「上野博士とハチ公像」はそれを象徴的に表現することができると思えます。

ハチ公の没後80年の命日である2015年の3月8日に像の除幕を行い、その1年前にはシンポジウムも企画しています。

この像は、私たちの呼びかけにご賛同いただける皆様の募金で作ります。趣旨に御理解、御賛同の上、御協力くださいますよう、何卒よろしくお願ひいたします。

ハチ公と上野英三郎博士の像を東大に作る会  
会長 古谷 研  
東京大学農学生命科学研究科長・農学部長



### 呼びかけ人 「ハチ公と上野英三郎博士の像を東大に作る会」 愛称「東大ハチ公物語」 発起人名簿

会長	委員
大学院農学生命科学研究科長・農学部長 教授 古谷 研	大学院農学生命科学研究科、獣医病理学、農学部企画室長 教授 中山裕之
前大学院農学生命科学研究科科長 名誉教授 長澤寛道	国立科学博物館館長 名誉教授 林 良博
大学院人文社会系研究科、哲学研究室 教授 一ノ瀬正樹	大学院農学生命科学研究科、分子育種学 教授 正木春彦
大学院農学生命科学研究科、国際森林環境学 教授 井上 真	大学院農学生命科学研究科、国際情報農学 教授 溝口 勝
総合博物館、比較形態学・遺体科学 教授 遠藤秀紀	日本水士総合研究所理事長 名誉教授 宮崎 毅
大学院農学生命科学研究科、生物環境情報工学 教授 大政謙次	大学院農学生命科学研究科、獣医動物行動学 教授 森 裕司
大学院農学生命科学研究科、水環境工学 教授 久保成隆	事務局長 大学院農学生命科学研究科、農地環境工学 教授 塩沢 昌

**シンポジウムのお知らせ** 2014年3月8日に、農学部弥生講堂にてシンポジウムを開催します。詳細は「作る会」のホームページ(最下段のURLまたは「東大ハチ公物語」で検索)をご覧ください。

### 募金方法 2つの方法があります

東大基金をご利用の場合は、寄付金控除の証明書となる領収書が送付されます。

#### インターネットから「東大基金」に募金する

- 「東京大学基金」サイト <http://utf.u-tokyo.ac.jp> にアクセスしてください。  
※「東大ハチ公物語」サイト→寄付方法 からアクセスできます。
- 「寄付をする」のボタン(卒業生・個人・法人・遺産)の中で該当するものをクリックしてください。
- 「寄付情報入力」の「寄付目的」メニューから「その他」を選択し、ご支援先の内容に「ハチ公像を作るため」と入力してください。
- 「申込者情報入力」「決済情報入力」を入力後、内容をご確認の上、お申し込みを完了してください。



#### 郵便振替で「作る会」に募金する

- 振込先: ゆうちょ銀行 00180-2-633520
  - 口座名義: 東大ハチ公物語 (トウダイハチコウモノガタリ)
- ※ご請求をいただければ、振替用紙をお送りいたします。



#### お問い合わせ ハチ公と上野英三郎博士の像を東大に作る会事務局

〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学大学院農学生命科学研究科 生物・環境工学専攻 農地環境工学研究室  
TEL: 03-5841-5343 FAX: 03-5841-8169 [http://www.en.a.u-tokyo.ac.jp/hachi\\_ueno\\_hp/hp/](http://www.en.a.u-tokyo.ac.jp/hachi_ueno_hp/hp/)

## ～ ハチ公と上野博士の歴史 ～

### 1924年(大正13年) 11-12月頃

秋田県大館市の民家でハチが誕生。



### 1925年(大正14年) 1月

東大教授上野英三郎博士のもとに汽車で送られる。

同年5月頃から、渋谷駅や大学(駒場)に、毎日、上野博士の送り迎えをするようになる。

### 1926年(大正15年) 5月

上野博士が大学内で急逝。

この日、迎えに行ったハチは上野に会えず、上野の最期の着衣を置いた物置にこもって3日間何も食べなかった。

その後、毎日、朝夕に渋谷駅に通うようになる。



上野博士には実子がなく、ハチが博士同様に慕っていた妻の八重さんは事情により一家の暮らした家を相続できず、大型犬のハチを飼うことができなくなり、ハチは、上野博士に恩のある植木職人に飼われることになった。

### 1932年(昭和7年)

秋田犬の保存運動をしていた

研究者の斎藤弘吉氏が、渋谷

駅に毎日通う老犬のハチのこ

とを朝日新聞に投稿して記事

になり、ハチ公として世に知ら

れることになった。



### 1934年(昭和9年)

渋谷にハチ公の銅像ができる。

人々の募金によって作られたこの銅像は、その後、戦争のための金属提供で溶かされ、わずかな金属塊となった。戦後に2代目として作られたのが現在の渋谷ハチ公像である。



### 1935年(昭和10年) 3月8日

ハチ公、渋谷にて死去。